

# 広島市立古田台小学校

(<http://www.furutadai-e.edu.city.hiroshima.jp/>)

校長：田中雅美

所在地：広島市西区古田台一丁目5-1

連絡先：☎ 082-273-8541

—自然の中での集団宿泊活動の充実—  
—道徳科などの指導との連携—

## 1 集団宿泊活動の概要

(1) 期間：令和元年8月26日(月)～29日(木)

(2) 場所：国立三瓶青少年交流の家(島根県)

(3) 人数：23名

- (4) 目標：○友達と協力して活動する。  
○自分から進んで行動する。  
○失敗をおそれず、積極的に行動する。  
○友達のよいところをたくさん見つける。  
○ルールを守り、規則正しい生活をする。

(5) 日程：

	1日目	2日目	3日目	4日目
午前	学校発(8:30)	●S A P (Sanbe Adventure Program) ・集団、人間関係作り トレーニング	●熊谷家かまど体験 ・重要文化財熊谷家住宅 の見学 ・かまどと七輪を使った ご飯、みそ汁、焼き魚 の調理、実食体験	●オリジナル焼き板作成 ・三瓶山で採れた杉板と 木の実を使用してプレ ートの作成
午後	●三瓶山登山 ・男三瓶山1126mへ の登山(往復約4 時間) ・クラス写真撮影	●ネイチャートレイ リング(雨天中止) ・国立公園三瓶山北の 原の森林での自然 観察とふれあい(往 復約2時間)	●石見銀山散策 ・世界遺産石見銀山遺跡 と周辺の街並みの見学 (約4時間)	●三瓶自然館サヒメルの 見学 ・三瓶の自然、環日本海 地域の自然史学習
夜	●キンボール ・ユニバーサルスポ ーツの一つ ●家族への手紙①	●キャンドルサービス ・迎火、交歓、送火セ レモニー	●天体観測会 ・三瓶自然館サヒメルの 天文台で太陽系惑星の 観察 ●家族への手紙②	学校着(17:00)

## 2 集団宿泊活動の特色

### (1) 小学校で求められている集団宿泊活動

「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）」（以下、学習指導要領という。）の第 6 章特別活動において、〔学校行事〕 2 内容の項目では、次のように示されています。

#### (4) 遠足・集団宿泊的行事

自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、よりよい人間関係を築くなどの集団生活の在り方や公衆道徳などについての体験を積むことができるようにすること。（小学校学習指導要領（平成 29 年告示） p 183）

小学校においては、『『自然の中での』集団宿泊活動など』とされています。「自然の中での」という言葉は中学校及び高等学校の学習指導要領にはなく、小学校の遠足・集団宿泊的行事の特色となっています。この点について、小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編」（以下、解説という。）においても、次のように示されています。

- 校外の豊かな自然や文化に触れる体験を通して、学校における学習活動を充実発展させる。
- 日常とは異なる環境や集団生活において、自然や文化などに関心をもち、積極的に取り組もうとする態度を養う。

遠足・集団宿泊的行事には、遠足、修学旅行、野外活動、集団宿泊活動などが考えられる。

特に、児童の発達の段階や人間関係の希薄化、自然体験の減少といった児童を取り巻く状況の変化を踏まえると、小学校段階においては、自然の中や農山漁村等における集団宿泊活動を重点的に推進することが望まれる。（小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編 p 125）

さらに、解説には次のように示されています。

カ 宿泊を伴う行事を実施する場合は、通常の学校生活で行うことのできる教育活動はできるだけ除き、その環境でしか実施できない教育活動を豊富に取り入れるように工夫する。例えば農林水産業に関わる体験活動等その地域の特色や産業等に対する理解を深める活動を取り入れることも望ましい。また、集団宿泊活動については、よりよい人間関係を形成する態度を養うなどの教育的な意義が一層深まるとともに、いじめの未然防止等や不登校児童の積極的態度の醸成や自己肯定感の向上等の高い教育効果が期待される。そこで、学校の実態や児童の発達の段階を考慮しつつ、一定期間（例えば1週間（5日間）程度）にわたって行うことが望まれる。その際、児童相互の関わりを深め、互いのことをより深く理解し、折り合いを付けるなどして人間関係などの諸問題を解決しながら、協調して生活することの大切さが実感できるようにする。（小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編 p 125）

これら学習指導要領や解説にある「自然の中」や「その環境でしか実施できない」や「一定期間にわたって」といった箇所に着目しながら、前ページに紹介している古田台小学校のプログラムをみると、次のようなことが言えるのではないのでしょうか。



### POINT ①

「三瓶山登山」「ネイチャートレッキング」「天体観測会」「三瓶自然館サヒメル見学」などのプログラムは、三瓶の豊かな自然を生かしたプログラムであり、「自然の中」で行うことが重視されている小学校での集団宿泊活動の望ましいプログラムの事例となっている。



### POINT ②

同様に、広島市内とその近郊ではできない、大自然に囲まれた三瓶でしか実施できないプログラムであり、「その環境でしか実施できない」プログラムの事例となっている。



### POINT ③

4日間という「一定期間にわたって」集団宿泊活動を実施するとともに、初日の朝8時に学校を出発して、最終日の夕方17時に帰校するまで、体験活動のプログラムを効率的に配置し、4日間という期間を最大限有効に活用している事例となっている。

広島市内の中心部にある古田台小学校が、大自然の中に位置し、豊かな自然環境や生態系を抱く島根県の国立三瓶青少年交流の家で、自然資源を生かしたプログラムを組んで集団宿泊活動を行うことは、学習指導要領及び解説の趣旨に合致するものであるとともに、小学校の特別活動を一層充実・発展させる可能性をもつ実践であるといえます。

## (2) 特別活動と他の教育活動との関わり

「学習指導要領 第6章 第3 指導計画の作成と内容の取扱い」において、特別活動の指導計画の作成に当たっての配慮事項として、次のように示されています。

(2) 各学校においては特別活動の全体計画や各活動及び学校行事の年間指導計画を作成すること。その際、学校の創意工夫を生かし、学級や学校、地域の実態、児童の発達の段階などを考慮するとともに、第2に示す内容相互及び各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間などの指導との関連を図り、児童による自主的、実践的な活動が助長されるようにすること。また、家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等の活用などを工夫すること。(小学校学習指導要領(平成29年告示) p184)

学校行事においては、第2に示す内容相互及び各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間などの指導との関連を図ることが大切です。具体的には、特別活動の他の内容や各教科等で身に付けた資質・能力などを、学校行事においてよりよく活用できるようにしたり、学校行事で身に付けた資質・能力を各教科等の学習に生かしたりすることです。特別活動の指導計画の作成に当たっては、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間などの指導との関連を図ることが求められています。

また、道徳教育との関わりについて、次のように示されています。

(6) 第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、道徳科などとの関連を考慮しながら、第3章特別の教科道徳の第2に示す内容について、特別活動の特質に応じて適切な指導をすること。(小学校学習指導要領(平成29年告示) p184)

さらに、特別活動と道徳科の関わりについて、解説の中で「(2) 道徳科との関連」の項目において次のように示されています。

#### イ 道徳科と特別活動

(中略) 児童が特別活動における様々な活動において経験した道徳的行為や道徳的な実践について、道徳科の授業でそれらについて取り上げ、学級全体でその道徳的な意義について考えられるようにし、道徳的価値として自覚できるようにしていくこともできる。さらに、道徳科の授業での指導が特別活動における具体的な活動場面の中に生かされ、具体的な実践や体験などが行われることによって、道徳的な実践との有機的な関連を図る指導が効果的に行われることにもなる。(小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 特別活動編 p37)

特別活動における学級や学校生活における集団活動や体験的な活動は、日常生活における道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場であり、道徳教育において果たす役割が大きいことが指摘されています。

これらの点についても、学習指導要領や解説の趣旨を踏まえながら、古田台小学校のプログラムをみると、次のようなことが言えるのではないのでしょうか。



#### POINT

「三瓶山登山」「ネイチャートレッキング」「天体観測会」「三瓶自然館サヒメル見学」などの三瓶の豊かな自然を生かしたプログラムや、世界遺産に指定されている「石見銀山散策」などのプログラムは、「特別活動における様々な活動において経験した道徳的行為や道徳的な実践について、道徳科の授業でそれらについて取り上げ、学級全体でその道徳的な意義について考えられるようにし、道徳的価値として自覚できるようにしていく」ことを実現できる可能性のある事例となっている。

または、「道徳科の授業での指導が特別活動における具体的な活動場面の中に生かされ、具体的な実践や体験などが行われることによって、道徳的な実践との有機的な関連を図る指導が効果的に行われる」可能性のあるプログラムの事例となっている。

集団宿泊活動で経験した道徳的な実践や感じ取った道徳的価値について、集団宿泊活動終了後の道徳科の授業で振り返ったり、集団宿泊活動実施前に行った道徳科の授業で学習した道徳的価値について、集団宿泊活動での実践や体験を通して実感することで、理解をさらに深めたりすることができるのではないかとことです。このことについて、具体的な体験活動のプログラムを引用しながら、もう少し詳しく見ていきたいと思います。

## 三瓶山登山

交流の家に到着してすぐに、往復4時間かけて、標高1126mの男三瓶山へ登山しました。自然林の中を通り抜けたり草原の中を歩いたりしながら、四季折々の野草や野鳥のさえずりなどの自然に親しみました。互いに声を掛け合い、励まし合いながら登り切った山頂で待っているのは360度の大パノラマで、北は日本海、南には中国山地の雄大な山並みを抱く大景観は最高でした。三瓶ならではの自然の雄大さを実感できました。



声を掛け合いながら林の中をゆっくり進みます。

360度の絶景！



## 天体観測会

口径60cmの反射望遠鏡と4基のクーデ式望遠鏡のある本格的な天文台で、星の成り立ちや星座の由来などを聞きながら、月のクレーター、火星・木星・土星などの惑星、星団など天体観測を行う予定でしたが、あいにくの雨でした。使う予定だった望遠鏡を見学した後、プラネタリウムで星空観察し、満天の星空の神秘さ大宇宙のロマンを身近に感じることができました。



今まで見てきた中で一番おおきな望遠鏡！

宇宙のどこまで見えるんだろう？

## 三瓶自然館サヒメル見学

火山の噴火が作り出した三瓶山周辺には、変化に富んだ自然環境が広がっています。三瓶山誕生から現在の里山形成に至るまでの自然史や島根県の代表的な動物の展示などを見学しました。中でも、圧倒的な存在感を発しているのが新館の2階から4階までの吹き抜けに展示してある小豆原埋没林の実物標本でした。縄文時代の森が火山の噴火によって地中に埋もれ、生きていた時のまま根を張り、長い幹を残したまま直立するその姿は、私たちを一瞬にして4000年前の三瓶の原生林に誘ってくれました。まさに「大自然の神秘」の一言です。



人間が捨てたゴミが原因で生物が死んでしまうこともあるんだって。

自然クイズに挑戦！  
目指せ、全問正解！





教室で行う道徳科の授業だけではなかなか実感することが難しい自然の「雄大さ」や「神秘さ」などの道徳的価値について、これらのプログラムは、児童が実際に自然の中で体験することで、自然の美しさや偉大さに感動したり、人間の力が及ばない自然の偉大さと驚異についてしっかり感じ取ったりすることができる内容になっています。これらのプログラムを通して、例えば学習指導要領に示されている道徳科の次のような内容項目について、理解を深めることができると考えられます。

○「自然愛護」

自然の偉大さを知り、自然環境を大切にすること。

○「感動、畏敬の念」

美しいものや気高いものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつこと。

(小学校学習指導要領(平成29年告示) p166, 167)

私たちは、自然から受ける様々な恩恵に感謝し、自然との調和を図りながら生活を営んでいます。自然に親しみ、動植物が自然の中でたくましく生きてきた知恵や巧みさについて学び、自然と一体になりながら動植物を愛護し、豊かな情操を育てています。動植物はそれぞれの自然環境に適応して生活を営んでおり、人間も地球に住む生物の一員である以上、環境との関わりなしには生きていけない存在です。そのような関わりの中で、自然の美しさやすばらしさに、理屈抜きで感動します。これらのことを通して、人間も自然の中で生かされていることを自分の体験を基に考えられるようになるとともに、人間と自然や動植物との共存の在り方を積極的に考え、自分にできる範囲で自然環境を大切にし、持続可能な社会の実現に努めようとする態度を育むことにつながると思われます。

また、次のようなプログラムも実施されています。

### 熊谷家かまど体験

熊谷家住宅は、大森銀山地区最大の商家建築です。熊谷家は金融業などを営みながら、町役人や代官所の御用商人を務め、19世紀には大森の中でも最も有力な商家の一つとして栄えました。その熊谷家の建物は、江戸時代後期から末期にかけての、石見銀山における有力商人の生活の変遷を最もよく示す民家建築であり、平成10年に国から重要文化財の指定を受けました。その熊谷家住宅に残っている家財道具を使用して、昔の暮らしぶりを体験しました。今回は、薪割りから後片付けまで、電気・ガスを使わない昔のごはんづくりを体験する「かまど体験」と「七輪体験」を行いました。



なかなか火がつかない...

おいしそうに焼けてきたぞ



## 石見銀山散策

石見銀山は、1526年に発見されて以来、1923年の休山まで約400年間にわたって採掘されてきた日本を代表する鉱山遺跡です。大航海時代の16世紀には、日本の銀鉱山としてヨーロッパに唯一知られた存在でした。16世紀半ばから17世紀前半の全盛期には、世界の産銀量の約3分の1を占めた日本銀のかなりの部分が石見銀山で産出されたものだったと考えられています。銀を基軸にした東アジア交易において、石見銀山が重要な役割を果たしており、今も遺跡として当時のままに残されています。

龍源寺間歩は、江戸時代中期代官所直営の間歩として操業されました。昭和63年の発掘調査で発見され、現在は坑道内部が見学できます。龍源寺間歩の中は、一年中、気温が20度くらいだそうです。自然のクーラーのようですが、雨だったので少し肌寒い感じでした。江戸時代、人の手だけで掘り進めた洞窟の堀跡に直に触れ、当時の人々の思いや気持ちを想像しながら見学することができました。



間歩に到着

間歩の中

昔の人はこんなに暗いところで銀を採掘していたのか。



これらのプログラムは、児童が我が国の国土や産業、歴史などに関連する遺産を訪れ、直接見学したり説明を聴いたりする体験を通して、我が国の国土や産業の様子、我が国の発展に尽くした先人の業績や優れた文化遺産に目が向けられる内容になっています。さらに、郷土から国へと親しみをもちながら視野を広げることにもなり、国や郷土を愛する心を持ち、国や郷土をよりよくしていこうとする態度を育むことにもつながります。これらのプログラムを通して、例えば学習指導要領に示されている道徳科の次のような内容項目について、理解を深めることができると考えられます。

### ○「伝統と文化の尊重」「国や郷土を愛する態度」

我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつこと。

(小学校学習指導要領(平成29年告示) p166)

我が国や郷土の伝統を継承することは、長い歴史を通じて培われ、受け継がれてきた風俗、習慣、芸術などを大切にし、それらを次代に引き継いでいくということです。我が国や郷土の伝統と文化を大切にする心は、過去から現在に至るまでに育まれた我が国や郷土の伝統と文化に関心を持ち、それらと現在の自分との関わりを理解する中から芽生えてくるものであり、それは、国や郷土を愛する心へとつながるものです。

例えば、集団宿泊活動を実施する前に行う道徳科の授業において、「感動、畏敬の念」「伝統と文化の尊重」「国や郷土を愛する態度」などの内容項目について学習し、そこで学んだ道徳的価値を集団宿泊活動のプログラムで体験を通じて感じ取り、理解を深めることができるでしょう。

また、集団宿泊活動のプログラムで実感したそれらの道徳的価値について、集団宿泊活動の後に行う道徳科の授業で振り返ることで、体験を通じた実感に基づいて理解を深めることも考えられます。特別活動と道徳科を関連付け、相互に教育効果を高めることができると考えられます。

さらに「道徳科」の内容項目の改善と関連する体験活動のプログラムも一つ紹介します。

文部科学省は、道徳教育の充実を図る観点から、平成27年に小学校学習指導要領の一部改正を告示し、「特別の教科 道徳」を設置しました。この一部改正で、内容項目について改善が図られ、小学校第5学年及び第6学年の内容項目は22項目に整理されました。そのうち、例えば、「よりよい学校生活、集団生活の充実」の内容項目においては、学級生活の充実及び学校の様々な集団における役割遂行を重視して、次のように改善が図られています。

### ○「よりよい学校生活、集団生活の充実」

#### 小学校学習指導要領（平成20年告示）

「先生や学校の人々への敬愛を深め、みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。」



#### 小学校学習指導要領（平成29年告示）

「先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努めること。」

特別活動は、様々な構成の集団から学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して行われる活動の総体です。上記の内容項目の改善は、特別活動で育成する資質・能力に関わる三つの視点である「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」にも深く関わるものであり、例えば、次のような体験活動において特に具体化されているのではないのでしょうか。

### S A P (Sanbe Adventure Program)

体験学習方法の一つである「プロジェクトアドベンチャー」の考え方や手法を取り入れた、自分との対峙・挑戦、仲間への信頼・協力等を通して人と人との関わりを強め、一人一人の成長を促すプログラムです。アイスブレイクの「コントローラー」に始まり、困難な課題解決に向けての作戦づくりを体験する「フープくぐり」や「パイプライン」などのプログラムを行いました。ゲームの成功に欠かせないのは計画と実行への「全員参画」です。



合言葉は「楽しく、安全に、公平に、一生懸命！」

全員で声掛けすれば、絶対達成できるはず！





### 3 児童の感想

---

集団宿泊活動を終えた児童の感想の一部です。4日間がとても充実していたことがわかります。

#### ◆ 初日の登山を終えて ◆

男三瓶山に登りました。標高1126mです。歩くと約2.6kmです。とても疲れます。足も痛くなります。ですが、山頂の景色を見ると、疲れもふっとぶぐらい元気になります。

#### ◆ SAPを体験して ◆

クラスの仲を深めるためにSAPをしました。このゲームをやるなかで、「なぜここに来たのか」というこの野外活動に参加した意味を考えました。みんなが考えたここに来た理由や意味も聞けてよかったと思います。とてもよい時間になりました。

#### ◆ 熊谷家かまど体験を終えて ◆

私はみそ汁班でした。昔の道具でしたので大変だったこともありました。例えば火を起こすのは自分でやらなければいけないし、魚を焼くときにはうちわであおがないといけないことが大変です。でも昔の道具を使うことを体験できたことはうれしかったです。洗い物をするときにはせっけん代わりとして米のとぎ汁を使うそうです。昔の人の工夫も知ることができました。

#### ◆ 石見銀山散策を終えて ◆

間歩の中はとても寒かったです。今は電気がついていたけど、昔はサザエの中で火を灯しているだけでした。銀を掘っていると水が出てくるので、その水をすくう人や間歩の奥まで空気を送る人がいたそうです。昔は命がけで銀を掘っていたんだなと思いました。